

龍池山大雲院は京極四條の南にあり、浄土宗にして智恩院に属す。本尊阿弥陀仏は恵心僧都の作り給ふ、開基は貞安上人なり。此人安土論の時、浄家の宏才にして、信長公厚く帰依し給ひ、江州八幡に西光寺を建立して、貞安こゝに住職す。時に信長公御父子明智光秀が為に生害し給ふを、貞安上人伝へ聞きて急ぎ京都に登り、二条烏丸の辺に庵室をかまへ、ひたすら御菩提を弔ふ。其後秀吉公の命によつて、天正の末に織田信忠卿追福のため当院を草創し給ふ。此卿の法名を大雲院殿三品羽林仙巖居士と称す。「当院の号こゝに出たり、信長公信忠公回向塔此所にあり」信長公安土に御在城の時、貞安上人に七種の奇物を賜る、今当院の什宝なり。其中に法然上人の一枚起請文あり、是一休和尚の筆なり、奥に絵讚あり、図は達磨大師の後向の画なり、其讚に曰

達磨悟りたりといふきやつめが胸に何かす

へんてつもなきあばらほねかな

九年までざぜんするこそむやくなれ誠の時は弥陀の一声

仏御所さま

一 休 判